

平成27年度第2回県立長野図書館協議会議事録

1 日時 平成28年3月1日(火) 13:30～15:10

2 場所 県立長野図書館第2会議室

3 出席者

<委員(五十音順)>

伊藤直子委員、小林いせ子委員、玉城司委員、森泉浩行委員、山口登委員、山崎久子委員

<長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課>

本藤主事

<県立長野図書館>

平賀館長、山内企画幹兼次長兼総務課長、阿部企画協力課長、高橋資料情報課長、

町田専門幹兼資料係長、北原情報係長、町田主幹、関主査

4 会議次第

(1) 開会

(2) 館長あいさつ

(3) 会議事項

ア 平成27年度県立長野図書館事業について

イ その他

(4) 閉会

5 会議の概要

(山内次長)

本日はご出席いただきまして、ありがとうございました。

ただいまから、平成27年度第2回県立長野図書館協議会を始めたいと思います。

県立長野図書館の平賀館長からごあいさつを申し上げます。

(平賀館長)

図書館のこれからの姿をみんなで考えていきたいと思います。県立長野図書館が県内のみなさん、県内の図書館をつなぎながらやってまいりたいと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

(山内次長)

資料の構成について説明

(山内次長)

それでは、議事に入りたいと思います。ここからの進行につきましては、玉城会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(玉城会長)

玉城です。よろしく願いいたします。

県立長野図書館が知の拠点として活動することに期待します。また、自分たちが何ができるのか、明確に

していきたいと思ひます。

今日の議題は、主に、平成 27 年度の事業の進捗状況と県立長野図書館改革の推進についてであります。はじめに、事業の進み具合について、県立長野図書館からの説明を受けた後、委員の皆様から御質問、御意見を伺ひたいと思ひます。

それでは、関連がありますので、議題 1 と議題 2 について、事務局から説明をお願いいたします。

(高橋資料情報課長)

平成 27 年度 1 月末現在の県立長野図書館の利用状況についてご説明します。

月ごとの数値の変動は開館日数によっても左右する項目があり、5 月は蔵書整理・耐震化工事のため、開館日が 5 日間のみで、他の月は 24 日～26 日のため、月別比較をする場合は 5 月を除いてご説明します。

図書資料を借りる場合に必要となる利用カードの新規登録者数は、8 月がピークで 423 人、12 月がその 4 割程度に減少し最低の 168 人。計の前年度比 115.1%。

年齢別では 15 歳以下は 8 月がピークで 150 人、12 月がその 3 割以下の 41 人と最低。16 歳以上は 6 月がピークで 323 人、12 月がその 4 割程度 127 人で最低。

個人貸出の利用者数は、8 月が最高、4 月がその 8 割以下に減少し最低。計の前年度比 104.7%。

年齢別では 15 歳以下は、やはり 8 月が最高、4 月がその 6 割強で最低。16 歳以上は 6 月が最高、4 月がその 8 割程度で最低。

利用冊数は、一般図書・児童図書の計では、7 月が最高、4 月がその 8 割以下に減少し最低。計の前年度比 105.7%。計の一般図書 47,188 冊と児童図書 67,880 冊の比率をみると児童書の比率が高く 59.0%を占めています。

この利用冊数計 115,068 冊を先ほどの利用者数 34,698 人で割ると 3.3 冊で、1 回の貸し出しは 5 冊以内のところ、平均 3.3 冊の貸出しとなっています。

内数でインターネット予約貸出は、計の対前年度比は利用者数 95.6%、利用冊数 90.9%。

内数で宅配による貸出は、個人宅に送料は個人負担で宅配することによる貸出の状況です。

館内利用は、貸出ができない資料である新聞・雑誌等の閲覧で、一般図書室・児童図書室の計で利用者数・利用冊数ともに前年度比 104.1%。

図書館利用者状況は、図書資料の貸出、閲覧ではなく、研修会・会議・企画展等での当館にお出でいただいた利用者であり、対前年度比 118.0%。閲覧室利用者は、これは主に学習・自習としての利用になりますが、前年度比 112.4%。

当館の利用者数は計 174,276 人で前年度比 107.1%、その内入館した方の数、当館に入館して貸し出しをした冊数はご覧のとおりです。

書庫資料ですが、閉架書庫にあるため、利用者の求めに応じ職員が取りに行き利用に供した資料の利用冊数となりますが、対前年度比 116.4%。

マイクロフィルム利用本数は前年度比 69.3%、マイクロフィルム閲覧機 2 台、フィルム数 9,923 巻で信濃毎日新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、官報などがあります。

図書館間での相互貸借のうち、当館からの貸出は対前年度比 106.6%。他館からの借受は対前年度比 120.7%

視聴覚資料は、ここ数年予算の制約で購入できず、20本とわずかの利用にとどまっています。

インターネット端末は4台ありますが、この利用状況は対前年度比91.1%。

県内公共図書館の所蔵資料を検索できる横断検索システムは、当館ホームページから入りますが、そのアクセス件数の対前年度比は114.7%。

調査相談件数の計は対前年度比96.1%。相談内容は、NHK大河ドラマ「真田丸」の影響と考えられますが、真田氏関連の相談が目立っています。利用状況の説明は以上です。

(阿部企画協力課長)

今年度、県立長野図書館で実施した事業のうち、特に市町村支援として行っている研修事業について、ご説明します。

県立長野図書館が主体的になって実施した主な研修事業の一覧を1に記載してございます。

このうち、今年度初めて実施した事業、新しい形式で実施した事業を中心に2としてご説明します。

2(1)については7月のこの協議会でも予告させていただきました、文部科学省から委託を受けて、中堅司書向けに最新のテーマや課題について研修を行うもので、今年度の本県の重要な研修事業でした。

4Pから6Pをご覧ください。当研修は各講師からこれからの図書館が目指す方向性について、現在先進的に取り組んでいる事例の紹介やその課題などについて講義を受けました。

① 機関との連携 ②資料のデジタル化、電子書籍出版 ③地域資源の活用をキーワードに、ワークショップやグループディスカッションを多く取り入れ、参加者から自分の業務における問題点や課題について考えることのできる構成としました。

2(2)のバリアフリーサービス研修会ですが、従来は来館者サービス中心の取組事例に係る研修が多かったのですが、今回は特別支援学校の先生に講師をお願いして、読みや学習に困難や不自由を抱える児童・生徒への支援方法について、実習を交えて研修を行いました。公共図書館、県立学校それぞれから出席を得てお互いの現場への理解や協働の機会となれるような設定としました。

2(3)著作権講座は今年度初めて実施しましたが、図書館関係者の関心の高いテーマで88名に参加いただきました。参加者がグループになって討議をして課題、問題点などを整理していく形式としました。

2(4)子ども読書活動推進講演会については、当館主体でやはり今年初めて開催するものです。児童文学者の清水真砂子氏の講演会及び県内の子ども読書活動の推進に携わってきたグループの活動を次世代につなげていくための交流分科会を開催する予定です。

3 情報発信の活性化、関係機関との協働についてですが、7月の協議会でも報告させていただきましたが、現在行っている市町村巡回訪問相談の取り組みを充実させるため、訪問した図書館の先進的な取組、地域や関係機関との連携事例などについて得た情報を広く他の県内図書館・県民へ情報提供し共有していこうというもので、現在訪問結果を順次公式フェイスブックページで公開しているところです。

3(2)の信州大学附属図書館との連携ですが、8月21日に連携協定を締結し、現在は4月1日から①県内公共図書館が参加している横断検索システムへの信州大学附属図書館の参加、②当館と信大との相互貸借に係る郵送料の無料化について実施していく予定で打合せを進めています。説明は以上です。

(玉城会長)

ただいま、今年度の事業について説明がありました。

委員の皆様、御質問・御意見いかがでしょうか。

(森泉委員)

利用状況についてお伺いします。平成 27 年度の新規登録者数が 2,659 とありますが、分かれば結構ですが、県内の地区別の登録者数は分かるものでしょうか。

(高橋資料情報課長)

地区別の登録者数については出しておりません。統計としてあるかを調べてみます。

(森泉委員)

信大との連携の中で、県立長野図書館と信州大学附属図書館の資料の相互貸借に係る郵送料の無料化とありますが、どことどこの間が無料になるのでしょうか。

(阿部企画協力課長)

信州大学と県立長野図書館の間です。信州大学では、各学部間において荷物等を輸送する制度ができております。それにより、当館の資料をお貸しする場合には信大工学部に持参すれば、松本市の信大中央図書館へ届けることができます。また、この逆に、中央図書館からお借りする場合は工学部に届きますので、受取に行くことで郵送料の負担がなくなります。

(玉城会長)

確認しますが、工学部や教育学部は近いですが、農学部は遠いですね。それも無料と言うことでよろしいでしょうか。

(阿部企画協力課長)

各学部間で輸送するシステムがあると聞いております。

(森泉委員)

そのシステムを市町村公共図書館でも利用することができるのでしょうか。工学部に届いた資料を公共図書館が相互貸借することはできますか。

(平賀館長)

信大から県立長野経由で市町村図書館へ相互貸借ということはできません。それぞれの市町村図書館と信大の間の相互貸借の扱いになります。信大のキャンパスが近い図書館ならば、同様の相互貸借に関する協定を信大と結べば同様の扱いが可能になるのではないのでしょうか。

(小林委員)

利用状況について、今年度は昨年度に比べパーセンテージが上がっていて良かったなと思いますが、その理由は何でしょうか。

(高橋資料情報課長)

現時点では詳細に分析は行っておりませんが、今年度は、戦後 70 年の企画展を実施しましたところ、大変好評であったわけですが、このような企画展による利用者の増加が考えられます。また、長野市立図書館で大規模改修が実施されました。長野市立図書館が利用できなかったことも一因かと思います。

(小林委員)

要因が分かれば今後の参考にもなりますので、利用者が増加した理由を分析していただきたいと思います。

(玉城会長)

今日、この協議会の前に県立長野図書館を利用させていただきました。大変、職員の方が親切に対応してくれました。自分が探しているマイクロフィルムだけ利用できればと思っていたところ、このような図書もありますと教えていただいた。私の知らない図書であったため、大変うれしかったわけですが、そういうことをしていただければ、また来たくなる。小さなことですが、積み重ねが大事です。サービスの向上は利用者を増やすことにつながります。

(玉城会長)

ほかにいかがでしょうか。

もし何かありましたら、後半でも結構ですので、ご発言ください。

(玉城会長)

次に、議題の3に移ります。

県立長野図書館改革推進について、事務局から説明してください。

(平賀館長)

県立長野図書館の改革につきましては、7月の協議会の時に大まかな概要をお示ししました。

そこでは改革の二つの柱として、ひとつは「信州発これからの図書館の姿、公共図書館像」を発信していくこと、もうひとつは、「デジタル情報基盤」を整備することを掲げ、その二つの柱を四つの視点で実行するとしておりました。四つとは、「県内公共図書館への支援と連携」、「情報発信の活性化」、「デジタル情報化社会への対応」、「デジタル情報の充実」ということでした。

その考え方を県立長野図書館の中期5カ年間で想定し、「情報、人、空間」の軸でまとめ、教育長、知事に提案したものがお手元の資料です。これは、教育長、教育委員会経由で知事にも了承いただき、この資料に基づいて、来年度の予算策定・折衝を進めました。

これについて、来年度何をするのか、できるのかという視点でご説明します。

まず、「情報」ですが、図書館のみならず博物館、美術館、あるいは大学、市町村公共図書館、民間のデジタルな情報基盤を結びつけて信州知の入口を作りたいとご提案申し上げました。来年度実行に移したかったのですが、研究するための一定の予算をいただくにとどまりました。

情報提供の「基本機能の再生」については、来年度からデジタル情報関係の機器、例えばタブレット端末、パーソナルコンピュータを導入するとともに館内の無線LAN環境整備にも着手の予定です。

提供する情報媒体・コンテンツに関しましては、現在は商用データベースについては、新聞は信濃毎日新聞だけ、そのほかは官報だと少ないのですが、これを少しですが増やしはじめます。デジタル情報の基盤を整えて、より多くの情報に触れていただきたいと考えています。

「人」については、信州発のこれからの図書館を考えるフォーラムを何回かに分け実施し、議論し、学び合う場、事業研究を進める場などを設けます。対象はこれからの図書館がどうあるべきかと考える市民の方も含め公開を原則に、また、図書館関係者については自分たちが関わり、企画していくためにはどうしたらよいか啓発的なものから技能に関わるものまで広範囲に計画しています。

これまで県図書館協会が中核となって研修を行っており、県立長野図書館が主催となる研修機会はほとんどありませんでした。来年度、県立もイニシアティブを発揮して統合的にやっていきます。また、場所も長野市にとどまることなく、県内各地で開催します。

先ほど、阿部課長から今年度の研修会について報告説明がありました。これらの研修会は来年度のフォーラムのお試しと位置づけ、新しい視点や方法で実施し、その結果、参加者のみならず図書館関係の多くの方から高い評価を得たと思います。

そのうえで、来年度行うフォーラム(講座・研修・研究会)については、県内に限らず、県外の方の知見も入れて進めてまいります。

最後に、「空間」の革新ですが、残念ながら十分な予算を獲得できる状況にはありません。大きなリノベーションはできませんが、先ほどお話したように、デジタル情報の導入によりハイブリット型図書館を目指そうという方向性にはありますので、来年度も一部ではありますが、デジタルな情報に触れる空間を図書館の一般図書室の中に整備いたします。

以上が来年度実施を予定している改革への取組です。

(山内次長)

改革関連の予算について補足いたします。

県の平成28年度予算につきましては、現在県議会2月定例会において審議されています。

県立長野図書館改革については、大きく「情報」の改革、「人」の変革、「場」の革新という3つのテーマがあります。

はじめに、表の左側の「情報」の改革ですが、信州「知の入口」ポータル構築については、H28、29年度にかけて、調査研究を行っていきたいと考えている。これにかかる調査関連経費を要求しております。その下の「信州地域情報の充実・バックアップ機能の再生<専門性>」については郷土資料・専門図書等さらに新聞雑誌のデータベース導入について約2,800千円増額要求しております。

真ん中「人」の変革では、これからの図書館実現フォーラム、かわる図書館スキルアップラーニング、つながる図書館ワークショップ、人材ネットワークの構築等を予定し、これにかかる経費を1,000千円増額要求しております。

右側の「場」の革新では、モデル空間及び情報機器導入にかかる経費として約1,000千円増額要求しております。

いずれにしても、厳しい県財政の中で、より効果的に改革推進できるように県教委とも協調し、予算編成に努めてきました。

年度が変わりますと、すぐにでも執行していきたい事業もございます。5月の蔵書整理休館日を利用し、一部施設の整備に取り掛かりたいと思っておりますので、次回の協議会開催時には少し変わった県立長野図書館をお見せすることができるのではないかとこのように予定しております。

以上で、議題3の県立長野図書館の変革についての事務局説明を終わります。

(玉城会長)

ただいま、県立長野図書館改革について説明がありました。

委員の皆様、御質問・御意見いかがでしょうか。

(玉城会長)

私から質問させていただきます。グーグルやヤフーなどでキーワード検索するといろいろな情報が出てきます。有象無象の検索情報とは違った知の入口のポータルを県立長野図書館がどのように考えているのでしょうか。

(平賀館長)

情報源をどこから持ってくるかと言うことですが、グーグルはあらゆるところから情報を引っ張ってきているわけですが、信州に関わるデジタルな情報を対象とすること、それから信州デジくらや大学が作ったアーカイブなど、すでにある地域のアーカイブやデータベースをつなぐということ。信州に関する情報をさが

せるように国立国会図書館や国立公文書館をつなぐこともあるかもしれません。

たとえば論文のようなものはそう簡単にはグーグルではヒットせず、特別なデータベースに入って検索しないと見つけることができないですね。とかく、ネットさえあれば何でも知ることができると思いついでいるが、実はそうではありません。

(玉城会長)

グーグルが良いとも悪いとも言いませんが、何でも自分で選択してくださいというのが情報の提供のあり方です。信州の情報に限定されたとき、だれがどういう基準で選ぶのか大変難しいような気がします。県立長野図書館でこれは引用するのに足りるか足りないかということを誰がどう決めるのか大きな問題だと思います。かなり慎重にやっていると怖いような気がします。

(平賀館長)

一個一個の情報を取捨選択するわけではなく、信州の知の探索についての入口として、既存のアーカイブやデータベースを選んでつなぐということです。そこから情報を検索して探していただくということで、県立図書館が情報そのものを選んでいくということではありません。

(玉城会長)

それを誰が決めるのか伺いたい。つながりたいと考える人もいると思うが、県立長野図書館につなげてほしいと言ってきたときに、あなたの情報はあてにできないから駄目ですよという可能性もあるのでしょうか。

(平賀館長)

つないでほしいということは現時点ではまだなかなか想定しにくいのではないのでしょうか。要望があれば、当然リクエストとしては受けるでしょうけど。たとえばどういうことでしょうか。

(玉城会長)

具体的な例でいうと、私が主宰する真田文芸研究と言うホームページにアーカイブがあります。これをどんどん更新していきたいのですが、お金がない。更新料がかかります。

(平賀館長)

信州の知の入口という意味では、まさにそういう先生が作られたような、地域に根差して作られたアーカイブやデータベースが一番役に立つわけです。地域で暮らしていく人が地域のことを知りたいときには、いきなりナショナルアーカイブから入るとなると広すぎて、使いづらい。

先生が信州の俳諧研究のためにデジタルアーカイブを作ったような活動を動機付けるためにもこういう入口を作りたいのです。

これをやることにより、市町村や地域のレベルでもっと自分たちでもデジタルアーカイブを作って活用できるようにしよう、ということになってほしいのです。たとえば、自分の町史をデジタルにしてみんなが使えるようにしたい、箕輪町ではそういうことを始めましたけれど、そうしたデジタル情報や活動をつなぎ、促進するというふうに考えていただければと思います。

お話のように、地域アーカイブを持続していくことが難しい、維持できなくなったらせつかくためたデータベースの情報はどこへいってしまうのだろう、というようなことはさらに先のチャレンジです。私は、県立長野図書館がお預かりすることができなければいけないと思います。今までは本については、郷土の資料が市町村立になくとも県立で収蔵していた。それと同じようにデジタル情報についても同じに考えようという、ひとつそうしたことの象徴としてこのプロジェクトを考えています。

というわけで、情報を上から誰かが意図的に選ぶという話ではなく、むしろ逆で、地域の活動を促進し、そのかたまりを受け止める場所というふうに考えてもらえれば良いと思います。

(玉城会長)

説明だと、チョイスしてやる、選んでやるかのような印象を受けたので。
他の方、意見ないでしょうか。

(山崎委員)

今年度は小諸で開催された県図書館大会に司書教諭として出席させていただきました。

ところで、平成 29 年度には北信越の図書館大会が長野県で開催されますが、県立長野図書館の取組はいかがでしょうか。県図書館協会から資料をいただきすごい内容の大会だなと思っております。

(平賀館長)

平成 29 年度に、北信越大会が長野市で開催されることについては、決定されていることです。

(山口委員)

先ほど玉城会長がお話された図書館とデジタルデータの関係ですが、長野県図書館等協働機構が地域史料アーカイブに取り組んでおり、木曾山林資料館の資料を載せようと作業してきたが、その中で「紙盆」という言葉が出てきたので、この言葉に注釈をつけようと調べ始めたが、県立長野図書館に来て分ならず、国立国会図書館でも分からない。養蚕で使う道具というヒントから、養蚕が盛んだったどこかの町の郷土館に当たってみようと自分でインターネットを使ってしらべてみた。結論的には文献は見当たらなかったが、蚕が脱皮し、糸をはき、繭をつくるが、その繭をつまんで持って行くために使っていたのが「紙盆」と分かった。農家しか使わない。南木曾の田立で使っていたことが分かった。

今やっている作業は、木曾山林史料館の資料を整理することだが、これは昔の生徒が作った資料で、翻刻して載せたいと思っているが、ネットに載せるにはどうしたらよいのか、誰かが作ってくれなければならない。大変難しい問題だと思う。

(平賀館長)

そういう意味では、博物館でも、収蔵物をデータベースにして公開しているところが少ない。そこをなんとかしないと次の世代に残せない。

(森泉委員)

人の変革についてですが、県立長野図書館職員が出かけてきて相談にのっていただけるのは、市町村公共図書館としては大変ありがたい。

山口委員と関連しますが、それぞれの地域の頭の中とか生活体験をどう見せるか、これは地域の図書館の仕事だと思う。また、それをどう活かすか。その一つは図書館の職員の質の向上が大事だと思う。単体だけでは難しい。いろいろ刺激を受ける必要がある。決まった地域だけでやっている硬直化してしまう。公共の中には館長が 1 人で切り盛りしているところもある。そういうところで今のようなお話はなかなか難しいようにも思う。地域の中心となる公共図書館が支援できるような横の連携が必要になる。そうした職員の研修をやってもらえると有り難いと思う。

(平賀館長)

図書館間の人的ネットワークをつくるようにいろいろ工夫していきたいと思います。昨年来の講座や情報発信を通じてそうした動きが出てきたように思います。

(伊藤委員)

人の変革に関係したことですが、司書になるという夢をもって学校を卒業した方が、なかなか正規職員として働けない状況であると聞いております。嘱託でも図書館で働けるならと働いている方が多い。この資料にあるとおり勤務期間は短く 2 から 3 年であり、やりたかった仕事なのにその後のことを考えるとどうなる

かわからないので、仕事に対するモチベーションが上がらないという話を聞きました。それが3年から5年になることでどのぐらい変わるのかと思いますので、できるだけ囑託ではなく正規になればいいなと感じました。

それからもう一つ、学校図書館の研修会に参加した職員から聞いた話ですが、せっかく図書館で働いているのだから、ゲームで遊んでいる子どもたちに、本を通じて何かできないかと考えながら働いている職員ばかりかと思っていたら、意外とそうでもなかったのが驚いたとのこと。職員一人ひとりの気持ちを量ることは難しいが、図書館職員のモチベーションをあげるような取組をしていただけたら有り難いなと感じました。

(平賀館長)

それぞれの図書館の運営や問題というのは色々あると思いますが、その中で先ほど話したように多くの図書館と話をしていきたいと思っています。

どんな気持ちで働いているのかという御懸念がありましたが、基本的にはただ働いているという人はみることがない気がします。本で何かを変えようという上から目線ではなく、子どもと一緒に何かやろうという立ち位置という意味ではないのでしょうか。

(小林委員)

たまに司書の研修をしますが、皆さん熱意を持って子どもたちのために考えている気持ちが伝わってきます。

(伊藤委員)

ほとんどの方はそうだと思います。

(小林委員)

さて、先ほどデータベースの話で、どのような内容をセレクトするかということについてですが、私は市史類の編集を何十年もやっており、各市町村の歴史の本を随分作ってきました。そこに至るまでかなりセレクトした見出しと文章をつけております。そこから更にセレクトしてしまわれると作った方の思いがどこまで伝わるかということアーカイブの話になるといつも心配しております。作業する方の好みで入れるか入れないかという選択基準が非常に気になります。

また違う話ですが、図書館での研修や館長さんが非常がんばっているという話を森泉委員からお聞きしました。同時に県民の方も図書館について試行錯誤して一緒に学んでいかないと、特定の図書館の方だけが一生懸命がんばっても県民の意識が上がらないと思います。県民全体の意識の向上に徐々にでも取り組んでいただきたいと思います。

さらに、お伺いしたいことがあります。県立長野図書館では絵画を保管していると思います。横井先生の絵画があるとお聞きしましたが、いかがでしょうか。

(平賀館長)

絵画などは歴史館に移管されたのではないのでしょうか。

(山内次長)

確かに、絵画については備品として管理しているものがあります。どのようなものを管理しているかについては、資料を持ち合わせていませんので、改めてご報告したい。

(玉城会長)

その他何かありますか。

(山口委員)

第1期・信州地域史料アーカイブ発表会について案内

(山内次長)

マイナンバー制度の導入による個人番号の提供について説明

(玉城会長)

以上で議事を終了させていただきます。

(山内次長)

長時間にわたって、御審議をいただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、第2回県立長野図書館協議会を終了させていただきます。

ありがとうございました。